

令和7年7月7日

地方ブロックプラットフォームにおける令和7年度「PPP/PFI研修」

資料 4

中堅職員主体による事業の推進 ～道の駅おとふけ移転整備事業を通じて～



音更町 経済部 商工観光担当部長
月居 謙介

音更町の概要

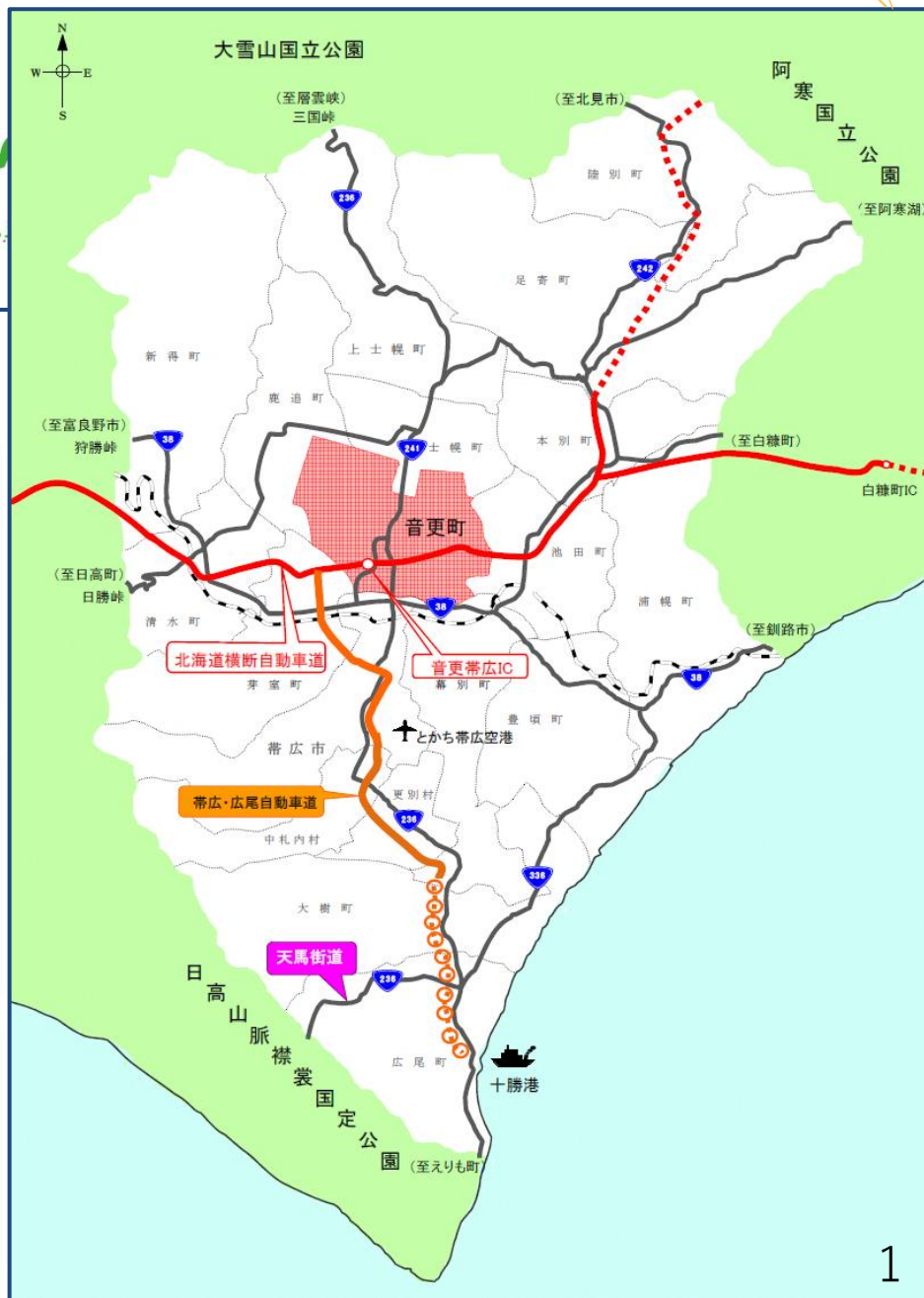
面積：466.02km²

人口：42,461人（R7.5末現在）

音更町は、北海道東部の十勝平野のほぼ中央に位置し、おおむね平坦で十勝川をはじめ90を超える河川が流れています。日照時間が長く、降水量も少ない住みやすい環境です。

農地面積は、町の面積を半分を占める約2万3千ha。広大で肥沃な十勝平野の中央に位置し、主要作物は、小麦、豆類、馬鈴薯、ビート、そ菜などで、酪農も盛んです。

雄大な十勝平野の中央を流れる十勝川のほとりに町が誇る観光資源である「十勝川温泉」があります。この温泉は世界でも珍しい「モール（植物性）温泉」で平成16年、北海道遺産に指定されました。



道の駅おとふけ 移転の経緯

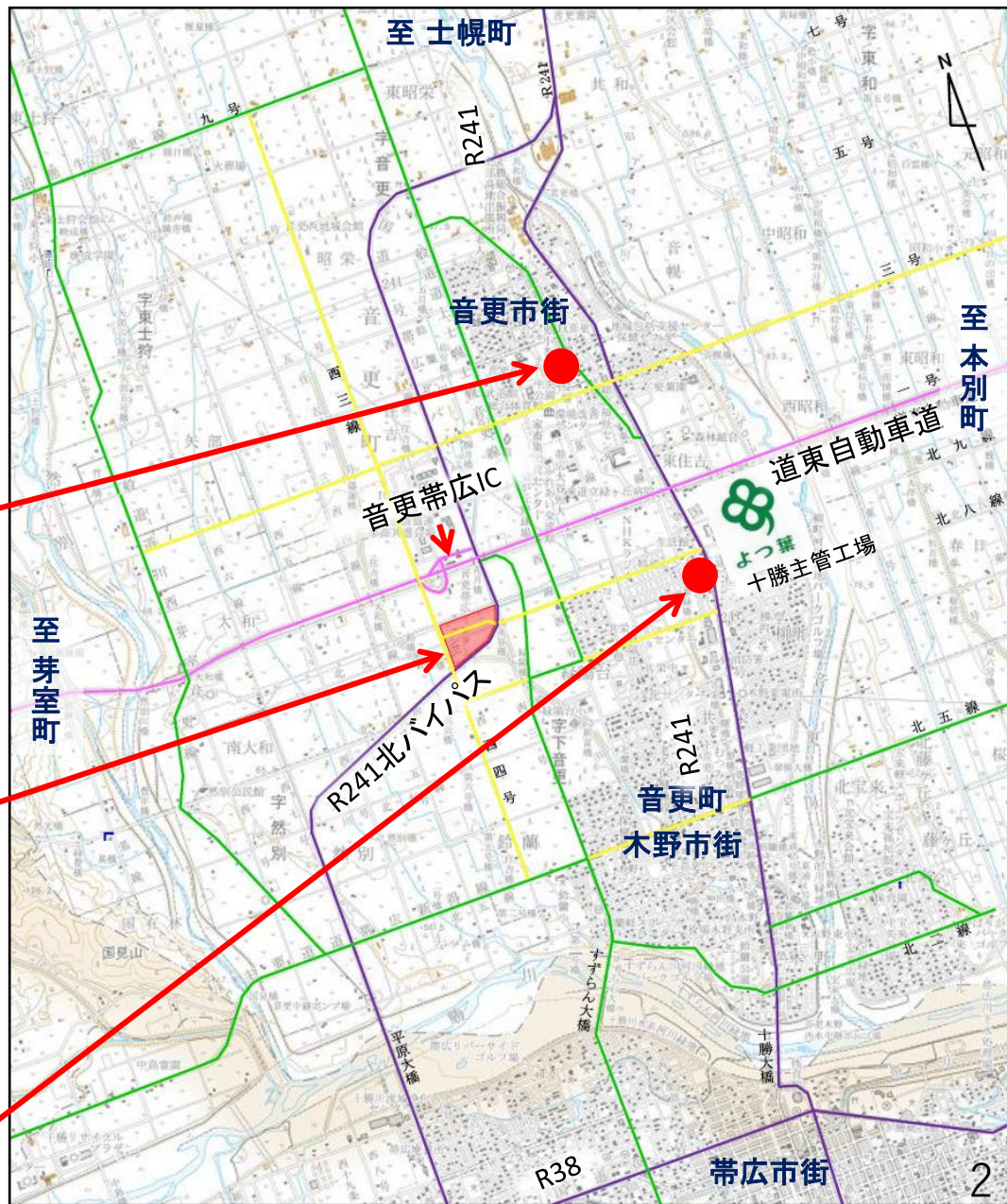
音更町役場庁舎



新 道の駅おとふけ



旧 道の駅おとふけ



背景

- 音更町は国内を代表する
農畜産物の産地でありながら・・・
- ・ 地場産品は町外の消費がメイン
 - ・ 観光資源として機能していない

現状の 課題

- 旧道の駅は・・・
- ・ 施設の狭あい化や老朽化が進み
情報発信が十分にできていない
 - ・ メインの観光ルートから外れている

事業の 目的

- 課題解決に向けて・・・
- 高速道路の I C に近接した観光客の主な移動
ルートに **「新たな道の駅」** を移転整備

これまでの 取組

- ➡ R1 実施・運営事業者の決定「ヴェスタおとふけグループ」（DBO方式）
7社で構成（設計1社・建設3社・運営2社・維持管理1社）
- ➡ R2～3 建設工事
R3年12月完成引渡し後、指定管理開始
（開業準備業務）
- ➡ R4 移転開業（4月15日）

音更町の主な農畜産物



★事業費

1,582百万円

（用地取得・造成・建設等）

道の駅おとふけ整備手法（推進体制）

- 新たな魅力発信拠点構想について、平成24（2012）年から庁内P Tを立ち上げて検討を開始し、平成26（2014）年に「魅力発信施設基本構想」を策定、その後も町内関係機関・団体とも検討の場を設置して諸課題の整理を進めた。

庁内P T（音更町魅力発信施設基本計画策定準備検討会）

【事務局】産業連携課

企画課、情報・防災課、農政課、土地改良課、農業委員会、商工観光課、都市計画課、土木課、上下水道課など

【主な検討項目】

財源の確保、移転場所の検討（農振除外・農地転用・市街化調整区域）、道路・交通、直売に参加する生産者（農家）の確保、販売する特産品（加工品の確保）観光施設との連携、商業的施設として賑わう運営体制・手法の検討、上下水道の検討、災害時の避難、支援拠点化の検討など

【検討体制の特徴等】

- ・ 庁内P Tは、管理職の監督の下、係長職を中心に組織され、課題や情報の共有を図った。
- ・ 事務局を専門的に支えるため、コンサルに支援業務を委託した。

道の駅おとふけ整備手法（推進体制②）

【事業推進に当たってのポイント】

- ・担当部署の考え、情報等をそれ以外の部署と共有し、想いを一つにする。
- ・道の駅設置者である自治体の考えを関係団体等と共有する。

※関係団体等 道路管理者（国）、NEXCO、農協、生産者組織、商工会、観光協会、関係企業等

・担当部署以外の職員を含め、当事者意識を持って主体的に動いてもらえるか（「わがこと」の事業としての意識）。

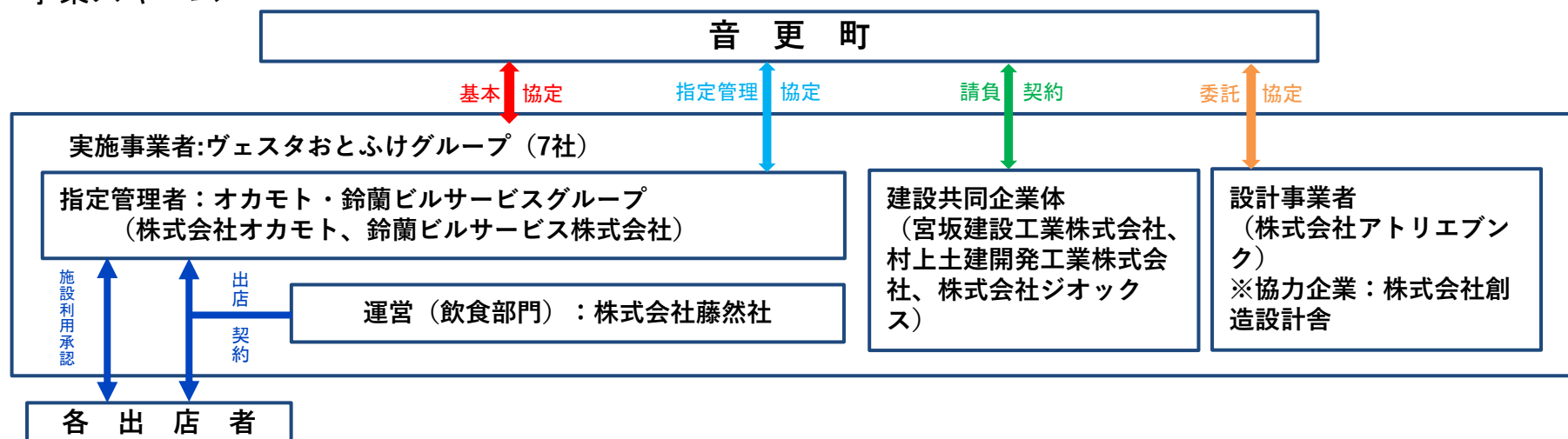
・担当部署を支える外的資源（コンサル）を活用し、スピード感のある業務を実現できるか。

道の駅おとふけ整備手法（スケジュール等）

●整備等スケジュール

時 期	内 容
平成30(2018)年4月 ～12月	●支援業務事業者業務開始（株式会社ドーコン） ●第1回道の駅おとふけ整備事業者審査委員会の開催（審査基準、実施事業者の選定の諮問等） ●公募型プロポーザルの募集開始
令和元(2019)年5月	●第2回道の駅おとふけ整備事業者審査委員会の開催（プレゼンテーション等の実施、審査結果を答申） ●実施事業者を選定
令和元(2019)年7月	●基本協定の締結
令和元(2019)年7月 ～令和3(2021)年12月	●基本計画、基本設計及び実施設計、造成工事、建設工事を実施 ※ 道の駅本館建物は令和3年12月に完成し、なつぞらエリアは令和4年3月に完成 ●指定管理業務開始（令和3年12月から令和14年3月まで）
令和4(2022)年4月	●4月7日～4月13日の間、プレオープンを実施 ●4月15日にグランドオープン

●事業スキーム



道の駅おとふけ「なつぞらのふる里」の概要



所在地：音更町なつぞら2番地



【沿革】

- 平成8（1996）年4月に道の駅登録（道内31番目）
- 平成23（2011）年に道東自動車道が札幌まで全通（夕張IC～占冠IC間の開通）したことをきっかけに新たな魅力発信拠点整備を図るため、移転を検討
- 令和4（2022）年4月15日に移転開業

【特徴】

- 道東自動車道「音更帯広IC」から約700mに位置し、「十勝の玄関口」としての機能を期待
- 「食の聖地」をコンセプトに9つの飲食店のほか農畜産物等販売所を設け、十勝・おとふけの食を集結
- 隣接する「柳月スイートピア・ガーデン」との相乗効果を期待
- 都市間バス、空港連絡バスの乗り入れによる交通結節点を形作る
- NHK連続テレビ小説「なつぞら」のセットを再現した施設を整備

整備手法：DBO方式
事業費：1,582百万円
(用地取得・造成・設計・建設)

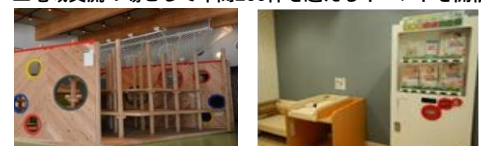
敷地面積：80,378㎡
(公園・国整備エリア含む)
建物面積：1,960.64㎡
駐車場：284台
(公園、柳月を含めると約千台)



▲地元生産者の直売、農畜産物を使った特産品の販売
▲地元食材を用いたメニューが並ぶなつぞらダイニング



▲地域交流の場として年間200件を超えるイベントを開催



▲子育て応援施設（キッズコーナー、ベビーコーナー）



▲都市間バス等の運行（交通結節点機能）
▲屋内防災倉庫



旧道の駅施設の外観
(年間約3万人の来場者)
移転開業1年で目標の2倍強となる150万人を達成した。
【旧施設との比較】
建物面積：約5倍
店舗数：2店舗⇒10店舗

安全・安心の拠点に
令和5（2023）年3月、道路法に基づく「防災拠点自動車駐車場」に指定され、広域的な災害応急対策の活動拠点となる。
72時間稼働の自家発電設備を備え、井戸水を確保。

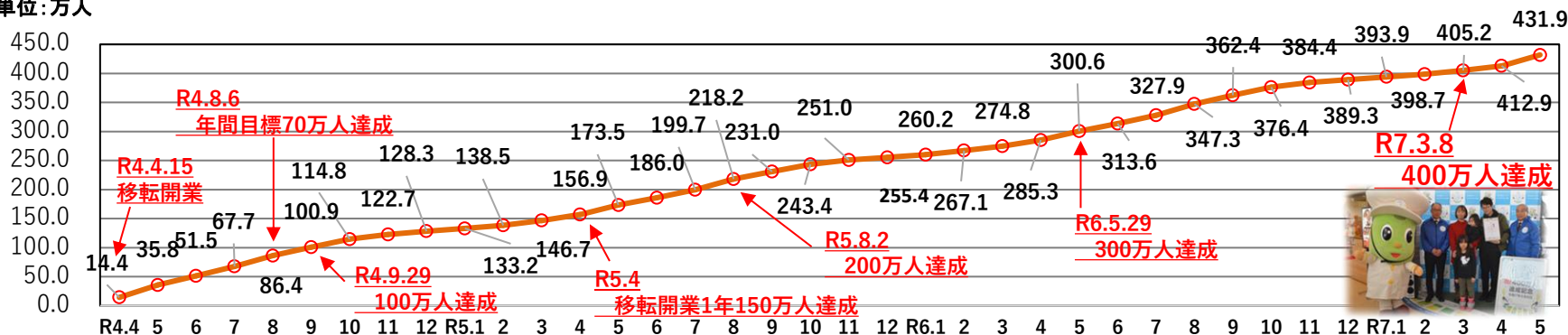


～「食」と「賑わい」と「安心・安全」の拠点に～

【年間イベント開催数】 R 4（2022）年度 **272件**、R 5（2023）年度 **334件**、R 6（2024）年度 **527件**

月別来館者数（累計）

単位：万人



北海道「道の駅」ランキング2023

（2024年12月2日 北海道開発局発表）

スタンプラリー完走者（3,014人）が選んだ「道の駅」ランキング
8部門のうち、6部門で**ベスト10入り**を果たした。

（『冬に訪れたい「道の駅」部門』と『いちおしの「おいしいもの」部門』で
ベスト10外となった。） ※全道127駅

北海道じゃらん 道の駅ランキング 2025

（2025年3月20日発行 「北海道じゃらん」2025年4月号）

総合満足度ランキング**第1位**（2023年、2024年はいずれも第3位）